

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課		No.	01
事業名	土地改良事業			
総合計画の 体系	大分類	2	未来へと引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する	
	小分類	(2)	環境と共存した産業の発展	
目的	農業経営の合理化を図るため、用排水路の計画的な維持管理を行う。			
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化の進んだ土地改良施設の更新を行い、農業労力の軽減、農業用車両の安全確保及び、用排水路の通水不良の改善等、農業経営の合理化を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・道路、河川及び橋りょう工事を含め合理的に整備ができるように計画的な改修及び修繕計画を立てる。 ・用水路のパイプライン化の調査検討 ・排水路敷きの緑化調査検討 	
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進み、要修繕箇所が増大している。営農に支障をきたす箇所においては緊急的に修繕を発注する必要があるが、広域的段階的に修繕を進めていくには、財政的にも将来の土地利用状況を想定しても困難状況である。 ・県営土地改良事業（合瀬川地区）により荒井堰掛りのパイプラインが完成しているが、開水路からの切り替えが進んでいない。 			
平成 27 年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急的な地区を選定し、計画的かつ合理的に整備していく。 ・平成 24 年度に作成した台帳を利用し、用排水施設の修繕計画の策定。 ・区要望に対する早期回答 ・荒井堰かかりのパイプラインについて、中干し以降に尾張農林水産事務所、木津用水土地改良区と通水確認をし、試験通水の実施を行い通常配水へ移行できるよう準備する。 			

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 ～ 7	用排水路保守点検委託業務発注 用水管理
9	単独土地改良事業の認可申請 認可（予定）
11 ～ 3	認可を受けた施設の改修工事の発注 完了

□3年間の目標

目標	老朽化した用排水路について、平成24年度に作成の用排水路施設台帳を基に、平成27年度は引き続き維持管理（改修・修繕・補修）計画を策定する。平成28年度以降は、事業計画に沿って、事業実施を行う。（達成年次未定）					
項目（単位）	H24実績	H25実績	H26実績	H27計画	H28目標	H29目標
用排水路施設台帳整備	作成					
維持管理計画策定				策定	事業実施	事業実施

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H28年度	維持管理計画に沿った事業実施
H29年度	維持管理計画に沿った事業実施

■事業コスト

		単位	H25 年度決算額	H26 年度当初予算額	H27 年度計画額
事業費		千円	31,353	33,434	37,293
(内特定財源)		千円	4,590	8,940	7,795
人工	職員	人工	0.40	0.50	0.50
	臨時職員	人工	0.00	0.00	0.00
	計	人工	0.40	0.50	0.50

■平成 27 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
単独土地改良事業費補助金	7,794	
大瀬川堰維持管理負担金	1	
合計	7,795	

■平成 27 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
15	農道、農業用排水安全対策等施設整備費	27,590	2,090	老朽化施設修繕費増
19	木津用水土地改良区負担金	2,948	1,290	適正化事業負担金増
19	合瀬川水系用排水施設整備事業推進協議会負担金	1,567	1,534	負担割合増、水質保全事業変更に伴う下流市町対策事業の増

■特記事項

維持管理費の増加を抑制し、施設を長持ちさせるため、予防保全(計画的にメンテナンスを行うこと)を目指し、補助金等を効果的に活用し施設の延命を図る。

昭和 40 年代に整備された用排水施設老朽化が進行しているため維持管理計画を策定する。

■目標又は改善策に対する取組内容

- 施設の老朽化など著しい通水不良と判断される区間を選定し、土地改良施設の整備を行った。
 - ・単独土地改良事業（県補助）として、用水路の改修をL=317mを施工。
 - ・取水口・排水口等の農業施設の老朽化に伴う不良個所の維持工事を行った。
- 用排水施設の修繕計画の策定にあたっては、県営ほ場整備事業として早期に効果があげられるよう計画の策定に努めた。
- 未利用区間のパイプラインを早期に利用できるように、愛知県及び木津用水土地改良区と調整を行った。

■評価

- 施設の更新を行うことで、農作業労力の軽減と農業用車両の安全確保及び用排水路の通水不良が改善され、農業経営の合理化を図ることができた。
- 用排水路修繕計画の策定については、愛知県との調整を行い平成30年度に県営事業として採択できるよう新規地区としての事業計画を申請した。
- 未利用区間のパイプラインの早期利用については、平成28年度に通水できる見込みとなり、労力の軽減と操作時の危険性の軽減を図ることが可能となった。

事業別経営計画書【A】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	02
事業名	道路維持管理事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(3)	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、道路施設の長寿命化を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・舗装、道路維持修繕等工事 ・道路樹木の維持管理 ・道路台帳更新業務 		<ul style="list-style-type: none"> ・住民団体による道路樹木の時管理
現在における 経過又は課題	<p>○道路、道路付属施設などの公共土木施設を建設し、管理してきたが、多くの施設が近い将来、更新(つくり直す)しなければならない時期が到来することが懸念されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設点検とデータ整理による状況把握と評価 ・求められる性能を念頭とした管理水準の設定 ・劣化予測による将来の状況、性能の推定 ・中長期管理計画の策定(予算の平準化やコストの縮減を考慮した最適な維持管理計画) <p>○過去における工事履歴等が台帳等に整理されているものの、舗装工事施工後の掘り返し規制に対する指導や占用申請工事等の窓口における対応時に活用されてこなかったために、窓口対応に矛盾が生じている。</p>		
平成 27 年度 の目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の平準化を考えた長期的な主要町道舗装修繕計画に基づき、修繕実施(交付金事業)。 ・予算の平準化を考えた中期的な道路付属物修繕計画を策定のため、点検業務を行う。 ・区要望に対する早期回答 ・舗装工事について、占用工事の舗装復旧と調整を行い生活道路の快適性を向上する。 ・窓口対応時の記録を残すことにより、窓口指導等の公平性を図る。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	道路樹木維持管理業務の年間契約 平成 27 年度維持管理工事実施計画策定
5~3	道路台帳更新業務 交付金事業で主要町道（小口線、役場南線）の舗装修繕を実施。
随時	舗装、道路維持修繕等工事

□3 年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要町道舗装修繕計画に基づく修繕実施 ・ 通学路の安全対策 					
項目（単位）	H24 実績	H25 実績	H26 実績	H27 計画	H28 目標	H29 目標
主要町道舗装修繕計画	計画策定	計画策定	計画実施	計画実施	計画実施	計画実施
通学路の安全対策	計画実施	計画実施	計画実施	計画実施	計画実施	計画実施

□2 年後、3 年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要町道舗装修繕計画に基づく工事の実施（交付金） ・ 通学路の安全対策（単独）
H29 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要町道舗装修繕計画に基づく工事の実施（交付金） ・ 通学路の安全対策（単独）

■事業コスト

		単位	H25 年度決算額	H26 年度当初予算額	H27 年度計画額
事業費		千円	107,748	132,792	131,792
(内特定財源)		千円	21,912	43,002	43,200
人工	職員	人工	1.50	1.40	1.00
	臨時職員	人工	2.00	2.00	3.00
	計	人工	3.50	3.40	4.00

■平成 27 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
道水路占用料	15,700	道路維持管理事業
社会新整備総合交付金(防災・安全)	27,500	道路維持管理事業
合計	43,200	

■平成 27 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
13	道路側溝浚渫委託料	8,198	681	集落内清掃に伴う搬出量の増大による。
13	道路付属構造物点検委託料	0	△3,000	H26 年度に点検業務が完了した。

■特記事項

舗装修繕計画を策定することにより、主要町道の長寿命化を図るとともに工事費が補助対象となる。
又、道路ストック総点検として、各自治体は、管理する全ての橋梁の他、トンネル、舗装、道路付属物（標識、照明施設等）、道路法面等の点検を行うことが義務付けられているが、当町ではトンネル及び法面は該当がないため、道路維持管理事業の中では、道路付属構造物の点検を行うこととしている。橋梁以外については定期点検の法制度化までされていない。

■目標又は改善策に対する取組内容

- 主要町道舗装修繕計画に基づき、舗装工事を行った。
 - ・社会資本整備交付金事業（国補助）として、舗装修繕工事 L = 3026㎡を施工（町道小口線1路線）。
- 町単独事業として、カーブミラーやガードレール等の道路施設の修繕工事を行った。
- 緊急修繕対応となる随時区要望（舗装部分修繕。道路反射鏡の修繕や設置等）については、現場確認のうえ速やかに対応した。
- 舗装工事における占用工事との調整については、掘り返し規制等の条件と照らし合わせながら行った。
- 道路樹木及び河川敷併用道路部分の維持管理について、地元9団体と低木管理や除草作業の委託契約を行った。

■評価

- 舗装修繕計画に基づき工事を行ったことにより、計画的な修繕を行うことができ予算の平準化が図られた。また、道路の修繕工事により歩行者や通行車両の安全の確保を図ることができた。
- 平成27年度に、1団体を追加することができた。地元9団体の方々に作業を委託することで、コストの縮減が図られたと共に、住民による自主的な管理によることで、適時に作業が行えることで、道路環境の向上や安全面の意識の向上につながった。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課		No. 03
事業名	道路整備事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(3)	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	道路の改良により、安全で安心な生活環境を確保する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道路用地の購入 ・道路拡幅、改良工事の設計 ・道路拡幅、改良工事の施工 		
現在における 経過又は課題	<p>○限られた資金の中で、交通上の安全や良好な生活環境を確保するために歩道や側溝の整備、用地の取得を行わなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道41号線の6車線化に伴う、外坪交差点協議において交通規制等の地元同意と公安協議を進めているが、信号機設置に対しての取り付け道路（町道内津々線）の進捗が遅れている。 ・町道布袋小牧線用地について、交渉を進めているが影響範囲（用地、物件補償範囲）が広く進捗が遅れている。 ・農道等の法面（土羽）を擁壁タイプとすることで、道路幅員の確保と維持管理費の軽減に向けて整備個所の選定を行ってきた。 		
平成27年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・区要望との整合性を図りながら、中期的な歩道整備等道路整備計画の策定を行い、整備順位と予算確保を行う。 ・国道41号線と町道内津々線の平面交差点化実現に向けての資料作成と国道工事に合わせた工事発注の準備を行うため、早期に詳細設計の発注を行う。 ・町道布袋小牧線が早期に改良できるように、地元関係者と協議し調整を行う。 ・農道法面改良工事を早期に発注することにより、投資効果を上げる。 		

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路用地の購入 ・ 道路改良工事の設計、施工(用地、用水時期等条件の整ったものから) 町道中小口 14 号線改良工事（用地取得後） 町道下小口 16 号線改良工事（用地取得後） 町道豊田 22 号線改良工事（継続工事） ・ 町道（農道）の法面擁壁化による拡幅

□3 年間の目標

目 標	・ 町道（農道）法面擁壁化による拡幅					
項 目（単位）			H26 実績	H27 計画	H28 目標	H29 目標
町道拡幅（擁壁工事）			計画策定	計画実施	計画実施	計画実施

□2 年後、3 年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H28 年度	・ 町道（農道）法面擁壁化による拡幅（罹災時の避難道路確保）
H29 年度	・ 町道（農道）法面擁壁化による拡幅（罹災時の避難道路確保）

■事業コスト

		単位	H25 年度決算額	H26 年度当初予算額	H26 年度計画額
事業費		千円	104,216	45,268	85,095
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0.75	0.60	0.80
	臨時職員	人工	0.00	0.00	0.40
	計	人工	0.75	0.60	1.20

■平成 27 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 27 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
13	交差点改良測量設計	3,154	3,154	R41×町道内津々線平面交差点化推進
15	工事請負費	60,000	16,110	町道(農道)法面擁壁化による拡幅
22	用地購入	21,941	21,941	下小口、中小口改良事業用地購入

■特記事項

--

■目標又は改善策に対する取組内容

- 区要望により道路拡幅等の見込みができた3路線に対して、用地現況測量を実施。
- 道路改良工事として、町道秋田100号線、町道下小口16号線、町道中小口14号線の拡幅工事をL=328m施工した。
- 国道41号線と町道内津々線の平面交差点化へ向けて、愛知県国道事務所及び愛知県公安委員会との協議を行った。
- 町道布袋小牧線拡幅工事に向け、改良幅員とスケジュールについて地権者の意見を聴きながら調整を図った。
- 法面改良工事については、道路敷地の有効利用と通学路等での安全確保を図れるよう路線の選定と2路線の改良工事を行った。

■評価

- 道路改良工事により交通安全対策が図られ、利用者の利便性と安全性が向上した。また、新設道路により、町道へ接道ができるようになったことから、土地の有効利用が図られ資産価値が向上した。
- 国道41号線拡幅工事に伴う町道内津々線との交差点協議については、引き続き協議することとなった。
- 町道布袋小牧線拡幅については、計画幅員、スケジュール等、概ね地権者の同意が得られたことから、緊急車両の通行や歩行者の安全確保に向け、事業を進めることができた。
- 道路法面に改良を加えることで、歩道の設置と路側帯の確保することができ、歩行者等の安全確保を図ることができた。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	04
事業名	橋りょう維持管理事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(3)	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、橋りょうの長寿命化を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 橋りょうの長寿命化修繕計画の策定 ・ 橋りょうの修繕工事の設計 ・ 橋りょうの修繕工事の施工 ・ 橋りょうの維持管理 		
現在における 経過又は課題	<p>○既存の管理橋りょうの多くは高度経済成長期に建設され、老朽化が進行している。道路法の改正により、これらの橋りょうについて適切な維持管理のもと長寿命化を図ることが義務付けられたことから、H22.23年度に橋長15m以上の橋りょう及び1・2級町道及び緊急輸送道路にかかる橋長2m以上の橋について全体86橋のうち37橋の現状把握と橋りょう点検を行い、H24年度には、この点検結果を用い、橋りょう長寿命化修繕計画策定を実施している。今後、残りの49橋の調査と計画策定が必要となっている。</p> <p>○10年間の修繕（等）計画では予算の平準化した金額を計上しているが、このほか、架け替え相当判定の橋があること、また、点検は5年ごとに行うこととなっており、予算の確保について留意する必要がある。</p> <p>○修繕工事については、H24年度に作成した修繕計画に基づき、昨年度から交付金事業として修繕を開始したが、計画の事業費算定の制度が低いことに加え、橋りょうの老朽化が想定以上に進んでいるものもあり、実施事業費と乖離が生じている。</p>		
平成27年度の 目標又は 改善策	<p>○点検が済んでいない49橋について、H28年度以降に実施できるよう計画の策定を行う。</p> <p>○平成22年度点検橋りょう（17橋）の2回目の点検実施することになっており、結果を受けて計画の見直しを行う。</p> <p>○昨年度に引き続き、点検済橋りょうの修繕工事を行う。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
6 ~12	H27 前回（H22）点検橋りょうの5年目定期点検の実施
10 ~3	H27 修繕対象橋りょうの修繕工事

□3年間の目標

目標							
	項目（単位）	H24 実績	H25 実績	H26 実績	H27 計画	H28 目標	H29 目標
	橋りょう長寿命化修繕計画	策定			点検	点検	
	橋りょう修繕			実施	実施	実施	実施

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿命化修繕計画に基づき修繕（交付金事業） ・長寿命化修繕計画に基づき H23 点検橋りょうの2回目点検（交付金事業）
H29 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿命化修繕計画に基づき修繕（交付金事業）

■事業コスト

		単位	H25 年度決算額	H26 年度当初予算額	H27 年度計画額
事業費		千円	500	34,374	58,664
(内特定財源)		千円	0	6,600	23,045
人工	職員	人工	0.25	0.25	0.30
	臨時職員	人工	0.00	0.00	0.20
	計	人工	0.25	0.25	0.50

■平成 27 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
橋りょう長寿命化修繕計画	3,080	橋りょう維持管理事業
橋りょう修繕事業費補助金	19,965	橋りょう維持管理事業
合計	23,045	

■平成 27 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
13	長寿命化修繕設計	7,161	△4,406	H26 補修設計(その2)追加設計
15	橋りょう維持工事費	51,503	28,696	補修設計の結果、事業費増となった

■特記事項

H26 年度以降は、長寿命化修繕計画に基づく修繕及び5年ごとの点検業務を行うことになるため、毎年3000万円程度の橋りょう維持管理事業費が必要になる。これに加え、河北橋について修繕で進めるのか架け替えを検討するのか、及び、雉子野橋の架け替えを検討しなければならない(費用以外に西武線の交通確保あるいは通行止め等の検討も必要)。

これ以外に、道路ストック総点検により各自治体は管理橋りょう全てについても、同様の点検を行うことが義務付けられている。H26 当初予算では点検費用が確保できていないが、国、県からは点検状況調査と指導が行われる見込みであり、実施に向け計画を立てなければならない。

■目標又は改善策に対する取組内容

○交付金事業として、五条橋及び万願寺橋の修繕を行った。

修繕の内容として

- ・五条橋・・・伸縮装置取替工、断面補修工、舗装工・防水工及び塗装塗替工（排水管他）
- ・万願寺橋・・・伸縮装置取替工、舗装工・防水工及び塗装塗替工（排水管他）

○橋りょう点検等業務として、平成22年度点検を実施した14橋の2回目（5年周期点検）の点検業務を委託した。

■評価

○橋りょう修繕工事により

- ・断面損傷個所の補修による断面損傷個所拡大の防止
- ・舗装工・防水工の施工によって、雨水浸透による主桁の劣化防止
- ・塗装塗替工による防護柵、排水管等の腐食の防止

等の対策を行い、橋りょうの長寿命化を図ることができた。

○橋りょう点検等業務による点検を実施したことで、橋りょうの安全性の確認と今後の対策を図ることができた。

事業別経営計画書【A】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	05
事業名	橋りょう整備事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(3)	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、橋りょうの架け替え、拡幅、歩道設置等を図る。		
事務内容	・ 橋りょうの整備工事の設計 ・ 橋りょうの整備工事の施工		
現在における 経過又は課題	H24 年度に作成した橋りょう長寿命化修繕計画において、架け替え相当とした橋りょうが1橋（雉子野橋）ある。このほかにも、修繕対応としている橋のうち、架け替えが相当と判断すべき橋（竹橋歩道橋）も1橋ある。これらの橋の架け替え計画について、事業費算定とともに、周辺交通への影響も精査する必要がある。 また、H26 に補修設計した河北橋についても修繕費算出のために追加設計を要するため、架け替えを含めた検討をしなければならない。		
平成 27 年度 の目標又は 改善策	雉子野橋は、橋りょう点検において、架け替え相当と診断されていることから、早期に対応するため、平成 28 年度に詳細設計を行えるように、河川管理者及び周辺企業との調整を行う。		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
	無し

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・橋りょう長寿命化修繕計画に基づき橋梁整備を実施する。 ・ 					
項目（単位）	H24実績	H25実績	H26実績	H27計画	H28目標	H29目標
橋りょう長寿命化修繕計画策定	点検	策定				
橋りょう長寿命化修繕計画に基づく橋梁整備					計画	

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H28年度	・長寿命化修繕計画で架け替え相当の橋の事業計画立案
H29年度	

■事業コスト

		単位	H25 年度決算額	H26 年度当初予算額	H27 年度計画額
事業費		千円	0	0	0
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0.00	0.00	0.20
	臨時職員	人工	0.00	0.00	0.00
	計	人工	0.00	0.00	0.20

■平成 27 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 27 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

長寿命化修繕計画では H30 年に配置している雫子野橋の架け替え計画については、周辺事業所の交通確保について検討のうえ、方策が決まってからの着手となる。

■目標又は改善策に対する取組内容

○雉野橋の架け替え工事に向けて、周辺企業への道路使用状況及び交通規制の影響について、聞き取りを行った。また、江南警察署と交通規制の事前協議を行った。

■評価

○平成29年度に架け替え工事が完了することで、危険個所の早期解消を図れるよう、段階的な調整がとれた。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	06
事業名	河川排水路維持管理事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(3)	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、河川排水路施設の維持管理を行うとともに長寿命化を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・側溝横断管等浚渫 ・住民団体への河川排水路の除草作業の委託 ・河川敷併用道路の草刈業務 		<ul style="list-style-type: none"> ・河川排水路の維持管理工事
現在における経過又は課題	<p>○河川、排水路施設を建設し管理してきたが、多くの施設が近い将来、更新(つくり直す)しなければならない時期が到来することが懸念されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組立水路の老朽化が進み豪雨時に破損することがある。 <p>○道路側溝、排水路の暗渠化に伴い浚渫要望箇所が増えている。また、開水路においても多量の堆積物、雑草により流下能力が低下する施設があり、特に排水路敷における雑草の繁茂については、草刈の依頼が年々増加している。</p> <p>○五条川堤桜の老木化により、将来的に桜並木が保存できないことが危惧されている。桜並木の存続に向けて対策が急がれる。</p>		
平成 27 年度の目標又は改善策	<p>○土地改良事業で実施予定の用排水路長寿命化計画の中で、予算の平準化を考えた長期的な排水路修繕計画を策定し、整備順位や他事業との調整を図りながら整備を行う。</p> <p>○浚渫要望については、現地の状況や毎年同じ箇所とならないように計画する。また、草刈についても今後の改修計画と併せ雑草対策の方法を検討する。</p> <p>○樹木医の意見を取り入れながら、枯死した幹や枝の剪定を行い延命を図る。また、存続に向けた検討をプロジェクトを含め行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区要望に対する早期回答 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 ~6	各区側溝清掃土砂搬出
6~	側溝横断管浚渫の実施（年間通じ） 住民団体による河川敷道路の除草（年間通じ） 業者委託による河川敷道路の除草

□3年間の目標

目標							
	項目（単位）	H23実績	H24実績	H25実績	H26計画	H27目標	H28目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H27年度	
H28年度	

■事業コスト

		単位	H25 年度決算額	H26 年度当初予算額	H27 年度計画額
事業費		千円	7,124	8,584	26,346
(内特定財源)		千円	0	0	1,800
人工	職員	人工	0.55	0.50	0.50
	臨時職員	人工	0.00	0.00	2.00
	計	人工	0.55	0.50	2.50

■平成 27 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
ふるさとづくり基金	1,800	五条川堤桜保存事業
合計	1,800	

■平成 26 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
13	委託料	20,811	12,227	五条川尾北自然歩道及び桜並木の管理
15	工事請負費	4,900	2,900	排水路老朽化対策(法張コンクリート工)

■特記事項

昭和 40 年代に土地改良にて整備された排水路の老朽化が進行。法面土砂流出による管理道路崩落や田圃水管理に支障が各所発生している。

■目標又は改善策に対する取組内容

- 河川排水路敷除草作業として、五条川、巾下川、境川、矢戸川等河川敷や水路敷の除草作業を行った。特に、地元住民団体（9団体）による除草作業が行われた。
- 排水路の浚渫工事を委託した。
- 河川排水路の修繕工事を行った。

■評価

- 河川排水路敷除草作業により、河川環境の向上と雑草による交通障害の軽減が図られた。
- 排水路の浚渫により、生活環境の維持と排水路通水断面が確保されことにより、排水機能の維持が図られた。
- 河川排水路の修繕を行い、排水路の機能維持による危険個所の解消を図った。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	07
事業名	河川排水路整備事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(3)	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、河川排水路施設の整備を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川排水路の改良工事の設計 ・ 河川排水路の改良工事の施工 		
現在における 経過又は課題	<p>○現在の排水路施設は、土地改良事業により築造された施設が多く、豪雨時に流下能力が不足する水路が多くあり、また老朽化した組み立て水路においては、破損することがある。</p> <p>○近年の集中豪雨によって、接続する河川や排水路の流下能力が不足する場合もあり、内水氾濫による浸水被害が発生する危険性が出てきている。</p>		
平成 27 年度 の目標又は 改善策	<p>○土地改良事業で実施予定の用排水路長寿命化計画との整合を図り、長期的な排水路改修計画を策定し、整備順位を定め計画的な整備を行う。</p> <p>○排水路改修にあたっては、現在の氾濫状況を検討し流下能力の確保を行う。また、下流への影響がある場合は、都市整備課と連携し調整池整備を検討する。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
10	排水路改修工事実施

□3年間の目標

目標							
	項目（単位）	H23実績	H24実績	H25実績	H26計画	H27目標	H28目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H27年度	
H28年度	

■事業コスト

		単位	H25 年度決算額	H26 年度当初予算額	H27 年度計画額
事業費		千円	6,510	3,000	3,000
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0.30	0.30	0.50
	臨時職員	人工	0.00	0.00	0.40
	計	人工	0.30	0.30	0.90

■平成 27 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 27 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

排水路の改修工事をすすめ、豪雨時における越水、破損の防止をめざす。

■目標又は改善策に対する取組内容

○老朽化し通水不良となった1地区の排水路改修工事を行った。

■評価

○排水路の法面コンクリートを施工することにより、通水断面を確保することで通水不良個所の解消が図られた。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課		No. 08
事業名	調整池維持管理事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(3)	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、調整池の長寿命化を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調整池の修繕工事の設計 ・ 調整池の修繕工事の施工 ・ 調整池の維持管理 		
現在における 経過又は課題	<p>○余野1号調整池ポンプが排水完了前に停止する状況が続いたため、H25年度にはポンプ分電盤修繕を行い、余野2号調整池のポンプについても取替修繕を行った。この他、施設の老朽化に伴い修繕が増えてくると思われ、点検により不具合の早期解消をしていかなければならない。</p> <p>○県施設である奈良子川調節池と昭和川調整池については、一宮建設事務所から維持管理委託を受託している。※昭和については、2年ごとに江南市と交替となっている。</p> <p>○替地調整池整備に伴い、既存の小屋と資源ごみ集積場を移設している。都市整備課所管の調整池整備後の公園整備工事までの間、これら施設の維持管理を要する。</p>		
平成27年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期点検結果に基づき適正に維持管理を行う。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 ~3	奈良子川調節池の維持管理 （県より受託し、住民団体委託） 替地調整池整備に伴い移設した施設の保守管理

□3年間の目標

目標							
	項目（単位）	H24実績	H25実績	H26実績	H27計画	H28目標	H29目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H28年度	
H29年度	

■事業コスト

		単位	H25 年度決算額	H26 年度当初予算額	H27 年度計画額
事業費		千円	3,431	3,898	3,177
(内特定財源)		千円	1,360	1,380	830
人工	職員	人工	0.25	0.20	0.20
	臨時職員	人工	0.00	0.00	0.00
	計	人工	0.25	0.20	0.20

■平成 27 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
奈良子川調節池管理委託金	830	
合計	830	

■平成 27 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
11	修繕料	0	△1,134	修繕予定なし
13	調整池維持管理委託料	1,524	329	替地調整池建設に伴う移設物件維持管理

■特記事項

維持管理費の増加を抑制し、施設を長持ちさせるため、予防保全(計画的にメンテナンスを行うこと)をめざす。

水位計の設置したことにより調整池の適正な管理と治水の安全性を確保する。

■目標又は改善策に対する取組内容

- 余野神社前調整池の分電盤の修繕を行った。
- 調整池（余野1号、2号、奈良子調整池）については、住民活動団体への除草作業を委託した。
- 余野2号調整池流入箇所河床が劣化したことによるコンクリート補修を行った。
- 余野2号調整池防護フェンスの修繕を行った。

■評価

- 定期点検の実施による故障箇所の修繕及び調整池の除草作業等により、適正な管理が図られた。